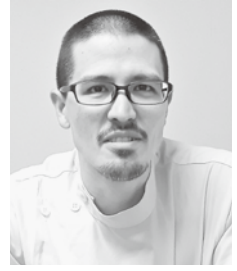


新型コロナウイルスでがん患者が注意すべきこと

危ない場所には近づかず

怖がりすぎないことも大事



羽山ブライアン副部長

新型コロナウイルスの感染拡大の問題で、日本対がん協会のがん相談ホットラインにも、がん患者やがんサバイバー、家族らから新型コロナウイルスへの不安や対応についての相談が増えている。がん患者は新型コロナウイルスで重症化しやすいのか、がん患者や家族は何に注意し、どう対応したらよいのか。がん研究会がん研有明病院院内感染対策部の羽山ブライアン副部長に聞いた(3月23日にインタビュー)。

——がん患者やがんサバイバーは、一般の人より新型コロナウイルスに感染しやすかったり、重症化しやすかったりするのでしょうか。

一般の健康な方に比べると重症化するリスクは高そうだとわかってはいますが、中国の患者でのデータが多いのですが、その中で高齢者に関するデータは多くてもがん患者に関するデータはあまり多くなく、実際にはやや不透明な点もあります。感染しやすいかについてはよくわからないのが現状です。感染しやすいかよりは、重症化しやすいかを気にするほうがよいです。重症化しやすい理由は、がんによって免疫の機能や臓器の状態が悪くなっていることの影響が推測されますが、はっきりした要因はわかっていません。

——がんの種類や治療の内容や時期で異なる点もあると思いますが、その中でもより注意すべきがん患者は。

化学療法中の患者は気をつけた方がよいと思いますが、手術後数年経っていて、その後の経過も落ち着いているようながんサバイバーの方は、リスクはあまり高くないと推測されます。

ただ、がんサバイバーの方にも色々な方がおり、例えば造血幹細胞移植を受けたような方は、免疫の力が通常の方とは全く同程度とはいえず、いくらかはリスクが高いかもしれません。そうした方はより注意が必要と言えます。

化学療法も薬の種類が増えており、その中には長期に免疫力を下げるもの

もあります。ただ、そうでないものもあり、明確な線を引くのは難しいです。放射線治療も内容によってリスクが上がる可能性はあります。全体的にがん患者のリスクが高そうとははっきりしているが、細かな内訳はまだはっきりしていないのが現状です。

——そういう中でがん患者の方は具体的にどういうことに注意すべきか。

怖がるべきことは怖がって、怖がり過ぎないことも大事です。感染をこわがって全く外出できず、ずっと家にこもっているというのも問題です。適切な対策を取って、適切に行動するのが大事です。厚生労働省が挙げている①不特定多数の人が集まる場所②換気の悪いところ③人が密に集まって話をするところ——の3つが重なる場所が最も感染のリスクが高いとされているので、こうした場所はしっかり避けるのが大事です。一方で「野外を歩く」というようなことは、感染のリスクは非常に低いと思われ、「自宅近くの公園に散歩に行く」というのを控えるのは、運動習慣をなくす面でのダメージが大きく、これは控えなくても良いでしょう。ふつうの人がやることをがん患者の方もきっちりやるのがいいと思います。

——その中でもがん患者が特に気をつけるべきことは。

危ないといわれているところに近づかないことの徹底が一番大事です。あとは手洗いと適切な形でのマスク着用です。色々な人が触れたところに触れた後、その手についたものを自分の体に持って行かないことが大事なので、気がつくタイミングでこまめに手を洗うことが大切です。また、習慣として手を口に持って行ってしまう人は、そうしないように意識することも重要です。

マスクはせき、くしゃみの症状がある人が飛沫を飛ばなくするのが一番の効能で、病原体が入ってくるのを防ぐことには十分な効果はないので、公園

の中でマスクをするような必要はありません。マスクがないと家からは出られないなどと思ってしまうのは、マイナス面が大きいです。マスクは必要な時だけ使って、使い終わったら捨てるという使い方が良いでしょう。

さらにこういう時だからこそ、しっかりと生活習慣を保つのが大事です。よく寝て、しっかりと食事をとる。体が疲れている状態にすると免疫を下げることは間違いないので、体調管理をしっかり保つのが大事です。

——治療中の人がかかりつけ医や主治医に話しておいたほうがいいことは。

抱えている不安を内にためてしまったりはよくないので、治療を受けに行った時は、主治医やかかりつけ医に不安を感じていることを打ち明けるのもいいことです。

——家族や周りの人が注意することは。

家族や周りの人も、がん患者が気をつけるのと同様の注意をしっかりとすることが大事です。患者が家の中にいても家族が人の密集しているところによって感染してしまったりは、同じことになってしまいます。

——病院に行くのが怖い、病院に行って感染するのでは、という不安を抱く患者も多いですが。

術後のフォローアップを半年後、一年後に行くような場合で心配な時は、医学的に急いでいく必要がなければ、外来に行くのを延期するのは合理的な対応です。ただ、術後早い段階の患者では、かえって害になるかもしれませんので、時期によります。新型コロナウイルスのことを気にしすぎて病院に行かないというのはかえってがんそのものを悪くしてしまうことになりかねず、心配しすぎないことも大事だと思います。

(聞き手 日本対がん協会本多昭彦)